

会 議 録

会 議 の 名 称	熊谷市都市計画マスタープラン・立地適正化計画 第1回策定委員会																														
開 催 日 時	令和2年9月1日（火） 開会時刻 13時30分 閉会時刻 15時00分																														
開 催 場 所	商工会館3-3会議室																														
出 席 者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">日本大学理工学部教授</td> <td>大沢 昌玄</td> </tr> <tr> <td>埼玉大学大学院理工学研究科准教授</td> <td>小嶋 文</td> </tr> <tr> <td>芝浦工業大学システム理工学部教授</td> <td>中村 仁</td> </tr> <tr> <td>熊谷市市議会副議長</td> <td>影山 琢也</td> </tr> <tr> <td>熊谷市市議会議員</td> <td>栗原 健昇</td> </tr> <tr> <td>熊谷市自治会連合会副会長</td> <td>船田 重則</td> </tr> <tr> <td>熊谷商工会議所議員</td> <td>長沼 俊一</td> </tr> <tr> <td>くまがや市商工会経営指導員</td> <td>小川 恵司</td> </tr> <tr> <td>熊谷市農業委員会会長</td> <td>木村 進</td> </tr> <tr> <td>くまがや農業協同組合企画管理部総務課課長</td> <td>橋本 孝之</td> </tr> <tr> <td>熊谷市社会福祉協議会事務局長</td> <td>長島留美子</td> </tr> <tr> <td>国際十王交通株式会社運転車両部長</td> <td>山岸 晃</td> </tr> <tr> <td>埼玉県熊谷県土整備事務所副所長</td> <td>小山 淳</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>寺井 直美</td> </tr> <tr> <td>公募市民</td> <td>高橋 大樹</td> </tr> </table>	日本大学理工学部教授	大沢 昌玄	埼玉大学大学院理工学研究科准教授	小嶋 文	芝浦工業大学システム理工学部教授	中村 仁	熊谷市市議会副議長	影山 琢也	熊谷市市議会議員	栗原 健昇	熊谷市自治会連合会副会長	船田 重則	熊谷商工会議所議員	長沼 俊一	くまがや市商工会経営指導員	小川 恵司	熊谷市農業委員会会長	木村 進	くまがや農業協同組合企画管理部総務課課長	橋本 孝之	熊谷市社会福祉協議会事務局長	長島留美子	国際十王交通株式会社運転車両部長	山岸 晃	埼玉県熊谷県土整備事務所副所長	小山 淳	公募市民	寺井 直美	公募市民	高橋 大樹
日本大学理工学部教授	大沢 昌玄																														
埼玉大学大学院理工学研究科准教授	小嶋 文																														
芝浦工業大学システム理工学部教授	中村 仁																														
熊谷市市議会副議長	影山 琢也																														
熊谷市市議会議員	栗原 健昇																														
熊谷市自治会連合会副会長	船田 重則																														
熊谷商工会議所議員	長沼 俊一																														
くまがや市商工会経営指導員	小川 恵司																														
熊谷市農業委員会会長	木村 進																														
くまがや農業協同組合企画管理部総務課課長	橋本 孝之																														
熊谷市社会福祉協議会事務局長	長島留美子																														
国際十王交通株式会社運転車両部長	山岸 晃																														
埼玉県熊谷県土整備事務所副所長	小山 淳																														
公募市民	寺井 直美																														
公募市民	高橋 大樹																														
会 議 の 議 題	<p>(1) 会長の選出及び副会長の指名</p> <p>(2) 都市計画マスタープラン、立地適正化計画について</p> <p>(3) 策定のポイント</p>																														
事 務 局	都市整備部都市計画課																														

発言者	発言の要旨
	<p align="center">(1) 会長の選出及び副会長の指名 ～事務局より会長の指名について説明～</p>
委員	事務局案があればお聞きしたい。
事務局	都市計画に精通している大沢委員にお願いしたい。
各委員	異議なし
	<p align="center">～事務局より副会長の指名について説明～</p>
会長	副会長は中村委員にお願いしたいが、いかがか。
各委員	異議なし
	<p align="center">(2) 「都市計画マスタープラン、立地適正化計画」について ～事務局より、資料1を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p>
委員	都市計画マスタープランの内容は長期的なぶれない計画とあった。20年後の都市を想像して決めていくと説明があったが、AI や IOT などの技術開発やコロナ禍で時代というか暮らし方が大きく変わる時期の中で、都市計画マスタープランは決まったら 20 年間変えないのか？
事務局	立地適正化計画は、経済や人口減少などの社会状況の変化に応じて短期で見直して構わないとされているが、都市計画マスタープランは熊谷市の土地利用に関する背骨のようなものなので短期での変更は考えていない。
委員	立地の適正化とは、具体的にはどういうことか。
事務局	立地適正化とは、人が暮らすために病院がない地域に病院を配置するなど、都市機能施設が少ないところに集積するなどに関する計画を立てることを立地適正化計画という。
事務局	<p>先程の都市計画マスタープランは 20 年先を見てつくることになるが、一方で市の総合振興計画は、10 年後を想定した計画である。</p> <p>土地利用は 1 年ごとに変わるものではなく、長期的に取り組んでいくため、都市計画マスタープランは 20 年後の将来を見据えたものとする。ただし、社会情勢が変われば必要に応じて計画を見直す必要はあるが、基本的には、ぶれずに</p>

発言者	発言の要旨
	済むような計画を作っていきたい。
委員	居住誘導区域が決まった後は、具体的にどのように対応するのか？住民に転居をお願いするのか、不動産業者に売買をセーブしてもらうのか？
事務局	居住誘導区域は強制力がある制度ではない。長く時間をかけて広がってしまった市街地を小さくするために、住んでもらうのに適した区域を設定し、区域内になるべく住んでもらうように誘導する施策である。居住誘導区域を設定してどのような施策を講じるのかについても今後考えていく必要がある。5年～10年で居住誘導区域に住民を集約するような考えではない。
事務局	居住誘導区域外で住居を建てようとする届け出が必要になるため、緩やかな誘導策になる。
委員	市街化区域は既に市街地を形成している区域だが、市街化調整区域内で開発が進み多くの方が住んでいる区域も出てきている。それらの区域は、40人/haの基準に達すると市街化区域に変わるのか？
事務局	40人/haは最低限の基準の1つであり、こういったところについては市街化区域にした方が良いということだが、実のところ日本全体の人口が減少しており、熊谷市も人口が減っている中で、市街化区域を増やす場合は理由が問われてしまう。そのため、基準が当てはまったとしても、市街化区域を増やすことは難しい。
委員	勉強になりました。ありがとうございます。
会長	市街化区域の見直しについては、埼玉県が定める都市計画区域マスタープランで決めることになる。埼玉県と熊谷市で協議をしながら決めることになる。計画の見直しの在り方は、都市計画マスタープランの最後に記載されているPDCAサイクルについてもどのような見直しが必要か一度皆様と議論する必要がある。コロナ禍で我々のライフスタイルや移動手段が変わろうとしているので、是非そこは20年間計画を変えない姿勢ではなく、見直す癖をつけた方がよい。20年間となると形骸化してしまうので、都市計画マスタープランの議論が進む中で、最後にPDCAサイクルをしっかりとやることを議論していただければと思う。
委員	コロナ禍で、都心に住む知人が密を避けて暮らすために郊外型居住地を探す話

発言者	発言の要旨
	<p>を聞くようになった。計画に対する話ではないが、ライフスタイルが変化する中で、あえて居住空間を市街地に集約化するイメージにとらわれない、または市街化調整区域で要件に見合えば建物が建てられる考え方を撤廃し、人口を増やしていく発想で物事を考えていくことができないか。様々な疑問も一方で出てきてしまうのではないかと考えているが、現在の問題に対して考え方も含めて伺いたい。また、「コンパクトシティ」と耳にはするが、大きく改善が見られた成功事例があれば紹介していただけるとイメージしやすい。</p>
事務局	<p>市街化調整区域について今までやってきたことを撤廃する訳ではない。市街化区域内のあり方を見直していく中で、市街化調整区域もそのままにはできないと考えている。市街化調整区域内の住民のコミュニティを存続させるような土地利用の方法として、例えば、既存集落については今まで通り認めたり、市街化区域から近い市街化調整区域はどうするかといったことを今後決めていきたいと思っている。今住んでいる人々のコミュニティを守るような開発は、今後も認めていくことになると思っている。</p>
事務局	<p>全国の自治体が立地適正化計画を立てて「コンパクト+ネットワーク」に取り組んでいる中で、何をもって成功と判断するかは非常に難しいが、優良事例はある。例えば、富山市では中心部に都市機能を集約しながら周辺地域とは公共交通できちんと繋がるようなまちづくりをしている。人口減少下で人口や都市機能を維持できているかどうかについては、評価結果が出れば今後分かってくる。先生方にもご教示いただければと思う。</p>
会長	<p>何をもって成功とするかについて今日議論することはなかなかできないと思う。例えば、防災についてはこういう事例があるとか、点在する商店を集約させたなど、次回の委員会で事例を紹介してもらいたい。</p> <p>ご指摘のようにコロナ禍でライフスタイルが変わりつつある。テレワークが普及して、今までは東京の大手町まで朝の新幹線通っていた熊谷市民が、月曜日と金曜日だけ大手町に行って週3日は熊谷市にいるようなケースも考えられる。今までは熊谷市から東京に吸い取られていた人口がテレワークによって昼間も熊谷市にいる人が増えているかもしれない。昼間人口に注目していく必要がある。</p> <p>計画策定して発表する時に、コロナ禍を踏まえた記述が何もないと市民もどのような計画なのかと疑念を持つと思う。コロナ禍でのライフスタイルの変化を都市としてどのように受け止めるのかについて皆さんと議論をして決めていく必要がある。細かい開発規制云々ではなく、ライフスタイルがどのように変わっていくのか皆様と密接に関わってきますので、是非その辺は検討いただけ</p>

発言者	発言の要旨
	ればと思う。
委員	都市計画マスタープランと同時並行でスマートシティの計画が進みつつあるが、熊谷市としてどのように進めていくのか。密接に関わってくるため、検討するワークショップなどを開催してほしい。
事務局	所管課ではないため概略の説明になるが、スマートシティは IT 技術のまちづくりへの活用を中心に検討を進めている。無人バスの実証実験などをまちづくりにどうやって活かしていくか、というようなことも検討されている。
会長	スマートな行政、スマートなプランなどある。10年前はインターネット環境が今ほど整備されていなかったが、今では大学などでも整備されている。「スマートシティ」をキーワードに、いかに都市に反映させるのか考えないと他の都市に遅れを取る可能性があるので、何をもってスマートシティとするのかも含めて検討いただければと思う。
委員	「コンパクトシティ+ネットワーク」はどのようなイメージなのか。
事務局	コンパクトシティは、以前から国土交通省が進めている政策で、都市を凝縮するような、散居した状態からまとまった集落を形成するイメージで認識している。コンパクトシティは、公共交通駅を中心に商業施設や福祉施設などの都市機能施設を集約させてその周りに居住誘導区域を設けて住宅地を形成することで徒歩圏内に都市機能がある中で暮らせるイメージ。ネットワークは、そのようにしてまとまった区域を公共交通でつないでいくイメージである。先程富山市のまちづくりが事例として挙げられたが、富山市では鉄道を中心とし拠点を設け、拠点間を路面電車やバスなど公共交通で繋いで効率化を図っている。
委員	ネットワークは、ICT 関連も含めたイメージを描いているのか？
事務局	都市計画マスタープランは、基本的に土地利用に関する計画の構想になるためハードを対象に考えてくが、ライフスタイルの変化や情報ネットワークなどの問題も加味しながら進める。
委員	居住誘導区域外と位置付けられていても、市街化区域内の所も出てくる。そうすると、居住誘導区域外をどのように活かすかについても立地適正化計画に関係してくる。ライフスタイルの大きな変化で在宅勤務が増えることが予測される。熊谷市も東京から遠いエリアではないが、中心市街地から離れると郊外の

発言者	発言の要旨
	<p>ような地区もあり、そういった地区でもテレワークできるような環境が必要になる。居住誘導区域外も見捨てられないようにしてほしい。</p>
委員	<p>資料 1 の P2 の一番下にある溢水と越水の違いは何か？</p>
副会長	<p>「溢水」と「越水」の主な違いは「堤防があるかどうか」という点にある。溢水は堤防のないところで水があふれる場合に使われる。越水は主に堤防がある河川において使われる。</p>
委員	<p>熊谷市の場合は、荒川と利根川に挟まれた区域でそれを売物にしていたが、予測できない自然現象の下にあるから防災対策にも注力する必要があるのではないか。</p>
副会長	<p>水害に関して熊谷市は全国でも先進的な取り組みができるかもしれない。利根川と荒川に挟まれ、市街化調整区域も広く、様々な課題があるので私も力を入れて検討を手伝いたい。</p>
委員	<p>「総合振興計画に即したものとする」とある。都市計画マスタープランは令和 3 年に策定するが、次の総合振興計画を策定するために都市計画マスタープランを策定し、総合振興計画に反映する段取りなのか？</p>
事務局	<p>総合振興計画と都市計画マスタープランの関係について。総合計画は地方自治法で自治体の総合計画として位置付けられており、概ね 10 年先を見て作成する熊谷市の経営に関する総合的な計画になる。都市計画マスタープランは都市計画法に位置付けられており、地方分権の流れの中で自治体毎にまちづくりの将来都市像を定めて都市計画を動かしていくという方向の中での制度化だったように認識している。法体系の中では熊谷市の計画の中で最上位計画が総合振興計画になるので、それに即して都市計画マスタープランをつくることになっているが、総合計画が 10 年先を見るのに対して都市計画マスタープランは 20 年先を見るものなので一歩進んだ部分はある。総合計画には土地利用の構想が含まれるため、そちらとも密接な関係があるマスタープランということになる。</p>
会長	<p>今のご指摘は重要で、熊谷市の総合計画と都市計画マスタープランの関係は、埼玉県の都市計画区域マスタープランも併せて時間の流れと位置関係を図で示した方が分かりやすいと思う。今日の資料にはないが、別途皆さんで共有した方が良い情報だ。時間軸を踏まえた考え方を次回以降お示しいただければあ</p>

発言者	発言の要旨
	りがたい。
委員	都市計画の線引きの見直し、用途地域の見直しも想定しているのか？立地適正化で逆に区域が小さくなる場合、この計画の中で見直しまで想定してやっていくのか？実質上の法的な手続き等にどのように乗ってくるのか、方向性が出ているのか？
事務局	市街化区域を市街化調整区域にするようなことは現時点では考えていない。別の手続きの中でやっていくことになると思う。
会長	埼玉県の都市計画区域マスタープランが上位計画としてあることが明記されていないので、記載しないと誤解を招くので追記をお願いしたい。
委員	今回の都市計画マスタープラン策定にあたり、前回までに進められてきたそれぞれの計画の整理や、解決した問題点はどの程度あるのか？
会長	前回策定した都市計画マスタープランの達成状況を精査したりまとめたものはあるか？
事務局	達成率は出ていない。各課に都市計画マスタープランの施策の取組状況についてヒアリング等はしている状況であり、これからも継続して内容確認を行う。
会長	過去のマスタープランの記載内容・目標に対してどのような結果が出ているのか、作りっぱなしにせずに見直しが必要である。達成していないことを追及するという意味ではなく、何が課題だったのか次の知見になるので、きちんとPDCAサイクルを回すという意味でも評価チェックをお願いしたい。
<p>～（３）策定のポイントについて～</p> <p>～事務局より、資料３を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p>	
委員	資料中に参考資料参照とあるが、どの資料を見れば良いのか？資料３では分からなかったが、参考資料を読めば分かるのか？
事務局	説明した内容は、参考資料の中から掻い摘んで話している。昨年の基礎調査結果を踏まえて現状と策定ポイントを示したものであり、細かい情報になるため詳細の説明は省いたが、後日こちらの資料をご覧いただきたい。

発言者	発言の要旨
<p>会長</p> <p>委員</p> <p>会長</p>	<p>今回は一回目の会議なので基礎的な話だったと思うが、居住誘導区域等の線の引き方について皆様と議論する際にはそういったデータがないとできないと思うので、次回は説明してもらいたい。</p> <p>「コンパクト+ネットワーク」は、公共交通で移動手段を確保していくとのことだが、どうしても市内全域に交通網を蜘蛛の巣のように張り巡らせてそれを維持していくという事はできない。選択・集中させていく必要がある中で、熊谷市として公共交通に関してどのように考えているのか方針を併せて説明していただき、その中で「コンパクト+ネットワーク」をどのように進めていくか土地利用と併せて考えていければ良いと思うので説明をお願いしたい。</p> <p>「コンパクト+ネットワーク」のネットワークは公共交通が担う。すべての地域で同じ密度と頻度でサービス提供を設定できるわけではないので選択と集中せざるを得ない可能性が出てくる。今日の会議は、どちらかという土地系の話が多かったと思うが、次回ネットワークについても時間を設けて説明をお願いしたい。</p> <p>なかなか聞き慣れない言葉もあると思うが、分からなければ何回聞いても良い会議にできればと思っている。どうしても忘れてしまうことはあるし、毎度同じ質問をしてはいけないということではなく、皆さんと理解を共通にする。約20万人いる熊谷市民の皆さんがこの計画の下に、これから20年後の熊谷市の在り方を考えるマスタープランなので、20万人の熊谷市民が分かるようにこの会議でも議論ができたらと思うのでよろしくお願いしたい。</p> <p>(4) その他</p>
<p>事務局</p>	<p>直近のイベントとして、9月26日に熊谷市立勤労会館の大ホールで熊谷まちづくりワークショップを開催する。興味がある方がいらしたらご参加いただきたい。これ以外に、地域別のワークショップを11月ごろに開催を予定しているため、それについても周知していきますので皆様のご協力をお願いしたい。</p>

—以上—